



トリプルワミー

通りすがりの薬剤師 足立博一

慢性腎臓病（CKD）の患者さんに接する機会も多いと思われませんが、そのような患者さんで急性腎障害（AKI）を引き起こし兼ねないトリプルワミー（Triple Whammy：三重苦）という三剤併用があります。その併用の一つ目はRAS阻害薬と呼ばれるアンジオテンシンⅡ（ATⅡ）受容体拮抗薬やアンジオテンシン変換酵素阻害薬で腎輸出細動脈に多く分布するATⅡ受容体へのATⅡの作用を弱めて血管拡張からの血圧低下、さらに糸球体内圧低下での腎保護作用が期待できる一方で糸球体内圧が過剰に低下すると尿量が減少します。二つ目はループ系利尿薬で過剰な利尿作用により体液量（血液量）が減り腎糸球体へいくべき血液量が減るため尿量が減少します。以上の二薬は併用される機会も多い薬で、ここに何らかの病因で三つ目の解熱消炎鎮痛剤（NSAIDs）が投与されると腎糸球体の細動脈に反応する血管拡張性プロスタグランジンE₂とI₂の合成が抑制されて腎細動脈の収縮が起こり腎糸球体への血流がさらに低下して尿量が減少しAKI発症リスクが高くなります。この三剤の組み合わせをトリプルワミーと呼んでいます。2024年から調剤報酬の調剤後薬剤管理指導料の対象疾患となった慢性心不全でも併用される組み合わせなので服薬指導に活かしたいものです。ただ、この組み合わせは併用禁忌ではないので患者さんの過去の症状に注意しながら服薬指導に反映するか場合によっては疑義照会するケースになるでしょう。

ここからは私の反省話になりますが二十年近く前に十数種類の薬を併用している独居の高齢男性患者さん宅に私が訪問指導に行った時の話です。風邪を引いたので定期の薬に葛根湯エキス剤が追加となり効能効果、服薬方法を説明して患者さん宅を辞したのですが翌日往診をした診療所から葛根湯エキスを一回分服用しただけで尿閉が起きたという情報提供を受けました。もともと前立腺肥大用の薬があり葛根湯に含まれる麻黄は交感神経刺激成分のエフェドリン類を含み膀胱平滑筋拡張作用から尿閉になっても不思議ではない組み合わせでした。何か適切なアドバイスができたのではないかと反省しきりでしたが、これもAKIになる組み合わせでした。

トリプルワミーの組み合わせに麻黄を含む漢方薬や抗コリン薬が追加になった時もAKIを起こす可能性があり、これら四剤併用はクアッドワミーと言えそうです。

〈著者プロフィール〉

足立博一（あだちひろかず）薬剤師、薬学博士。1980年金沢大学薬学部修士課程修了。1980年富山医科薬科大学（現富山大学）附属病院薬剤部入職。1994年サンウッド薬局（現アイン薬局）入職。1997年富山協立病院薬剤科入職。2002年（一社）ふれあい薬局入職。2005年（有）あだちPAS企画設立。1994年から富山大学薬学部非常勤講師兼務。2024年11月70歳を機に引退。著書：知って納得！薬のおはなし（幻冬舎ルネッサンス新書）。